



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、北海道地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

北海道地域ブロックから

北海道地域ブロック担当理事
大友 芳恵(藤女子大学)

気象変動や自然災害が絶えない現代において、心穏やかでない社会事象に憂うことが多く、社会福祉の役割を再確認することが多くなっておりますが、北海道のこの時期の5月・6月の、風が心地良い時期には「ライラックまつり」「よさこいソーラン祭り」が開催されます。また、7月の後半には「札幌ビアガーデン」も始まり、まさに季節を味わう日々となります。

今回は、「ライラック」について少しご紹介しようと思います。

北海道の雪解け以降には、大地が芽吹きはじめ生命の躍動を感じる北海道を体感することができます。我が家の庭先にもライラックがありますが、その可憐な淡い花びらを眺めると、不思議と心を落ち着かせることができる花です。

このライラックは、今日では札幌市のシンボルにもなっていますが、実は北星学園の創設者サラ・C・スミスが1890年に故郷であるアメリカから携えてきた苗木がその始まりとされています。1959年には「ライラックの花が咲き揃う季節に文化の香り高い行事を行う」という文化人の呼びかけにより始まったのがライラックまつりです。また、1960年には、市民投票によって、ライラックは「札幌の木」に選ばれました。

異国の地から北海道に根付いて130年のライラックのように、私たちも大地に根付き、人びとの生活が花開くように社会福祉の研究や実践を展開していきたいものです。

さて、2023年度の北海道ブロックの活動を振り返りますと、『北海道社会福祉研究』第44号の発行、日本社会福祉学会第20回セミナー「人口減少社会から考える社会福祉—パラダイムシフトへの道—」や「孤立・孤独支援に求められるソーシャルワーク実践」などの研修の開催などを行いました。取り組み成果はわずかなものであっても、ご紹介した「ライラック」のように北海道の地で根を張り、発展させるものにつなげていきたいと思います。

ライラック(Lilac, 学名Syringa vulgaris)

モクセイ科ハシドイの落葉樹。

ライラックの呼称は英語の仮名転写に由来し、他にフランス語由来のリラ (lilas) でも呼ばれ、和名はムラサキハシドイ (紫丁香花)

<特徴>ヨーロッパ原産。春(日本では4-5月)に紫・白色などの花を咲かせ、香りがよく香水の原料ともされています。

<花言葉>友情・青春の思い出・純潔・初恋・大切な友達など。

